

区分		H21実績	H22実績	H23実績	H24当初	備考
3 管理・運営状況	(1)指定管理者名	(財)掛川市生涯学習振興公社	(財)掛川市生涯学習振興公社			※1-(7) 現在の指定管理者と異なる年度のみ記入
	(2)利用者一人当たりの運営経費	1,063	977	882		
	(3)運営日数	302	305	306	307	
	(4)運営人員	①正規職員				
	②臨時職員	1.0	1.0	1.0	1.0	

2 施設管理に係るコスト情報

(単位:円、%)

区分		H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24当初予算額	備考
(1)運営コスト(A)	①人件費	1,733,273	1,745,793	1,936,970	1,985,260	
	②印刷費				107,400	
	③通信費	101,842	112,970	110,593	139,792	
	④事務用品、旅費、図書費など			171,955	184,338	
	⑤借上料					
	⑥保険料、消費税(租税公課)等	49,800	37,250	60,960	49,800	
	⑦その他(支払手数料、広告宣伝費、一般管理費、雑費)	485,770	492,376	542,670	628,610	
	計	2,370,685	2,388,389	2,823,148	3,095,200	
	対前年度増減率		0.7	18.2	9.6	
区分		H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24当初予算額	備考
(2)施設コスト(B)	①管理委託費(外注費)	3,251,764	3,075,144	2,121,420	2,282,700	
	緑化管理	2,627,100	2,453,453	1,449,000	1,606,500	
	防犯・防火管理	151,200	147,420	147,420	151,200	
	シルバー委託	446,164	435,106			
	エアコン保守	27,300	39,165			
	池清掃			525,000	525,000	

区分		H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24当初予算額	備考
(2)施設コスト(B)	②修繕費	94,500	39,060	595,386	100,000	
	③光熱水費	289,051	297,407	263,019	322,100	
	④燃料費					
	⑤清掃費					
	⑥保守点検費					
	⑦その他(施設消耗品)					
	計	3,635,315	3,411,611	2,979,825	2,704,800	
	対前年度増減率		△ 6.2	△ 12.7	△ 9.2	
(3)トータルコスト(施設管理費 合計) (A) + (B)		6,006,000	5,800,000	5,802,973	5,800,000	
(4)合計のうち運営コストの割合		39.5	41.2	48.7	53.4	
(5)施設の収入 ※1)下記3に入力する		1,063,520	1,150,980	1,070,150		
(6)運営コストのうち利用料収入の割合		44.9	48.2	37.9		

3 施設管理料又は歳入情報 注)【指定管理料施設は(1)欄に、利用料金制度又は両制度併用施設は(2)欄に記入】

(1)指定管理料のみで運営している施設

(単位:円)

区分	H21決算額	H22決算額	H23決算額	備考
a) 施設使用料収入	1,063,520	1,150,980	1,070,150	※施設使用料は、掛川市へ収入される
b) 指定管理料	5,800,000	5,800,000	5,800,000	
a)-b)	△ 4,736,480	△ 4,649,020	△ 4,729,850	

(2)利用料金制度施設又は指定管理料・利用料金併用制度施設

(単位:円)

区分	H21決算額	H22決算額	H23決算額	備考
a) 施設利用料金収入				
b) 指定管理料				
c) 指定事業収入				
d) 自主事業収入				
e) その他収入				
合計	0	0	0	

4 施設の評価

評価内容	評価のポイント	H23年度の結果	今後の改善策
(1) 施設設置目的の達成度	①施設設置目的に沿った運営が行われているか ②住民サービスの向上が図られているか ③施設設置目的の達成に貢献するような運営がなされているか	設置目的は「清水邸の自然、文化及び歴史を市民に広く開放するとともに茶道文化の普及及び伝承を図り市民文化の発展に寄与する」であり、庭園として清水邸は綺麗に管理され、地域の人々や来園者を和ませている。	清水邸庭園には庭の見学のため大勢の方が入園されるが、茶室への入館者(使用者を含む)は入園者の4割程度になっている。気軽に入館できるようなPRが必要である。
(2) 利用者満足度	①利用者満足度調査(アンケート)を実施し、結果の検討をしているか ②利用者数は増えているか ③特定地域の住民や特定団体だけでなく、広く市民に利用されているか	アンケート調査では入館されて満足されている方がほとんどであった。入館者数は昨年度に比べ130人ほど減ってしまった。23年度から部屋使用が始まり、利用された方は883人であった。入館者は横須賀地区を訪れた人が多い。	イベント情報の配布チラシは大須賀地区内が予算内では精一杯であり、インターネット等による情報発信をしていく。入館者の増に関しても清水邸のPRが必要であり、インターネット等によるPRをしていきたい。
(3) 効率的な運営	①管理運営費の算出根拠は妥当か ②管理運営費の削減は図られているか ③収支バランスは改善されているか ④利用料金制度の導入又は民間等への移行を検討しているか ※「利用料金制度」とは、条例で定める施設の利用料金の範囲内で、指定管理者の収入として収受させることができる制度。	管理運営費の削減は極限まで行われている。	現状が削減の極みに達しているのだから以上の削減は無理と思う。23年度の実績からすれば二の丸茶室管理費19,860,754円で収入5,456,900円であり、収益率27.4%で14,403,854円の持ち出しであった。湧水亭管理費は9,273,723円で収入は1,070,150円であり、収益率11.5%で8,203,573円のもちだしであった。このような状況の下、利用料金制度への移行は利用料金制度と指定管理料併用制ならば移行が出来ると思う。
(4) 施設の将来性及び統廃合の可否	①今後も市民ニーズに応えられ、高い費用対効果が見込めるか ②市内の類似施設との統廃合により機能等の集約は可能か	清水邸の自然、文化及び歴史を広く伝える場として清水邸庭園に入園される方は多い。茶室への入館は一般市民にはあまり理解されていない。二の丸茶室の入館者は1万4千余人、清水邸庭園湧水亭の入館者は2千3百余人であり、お茶の街掛川の茶道文化普及と承継のため必要な施設であり、ともに茶文化を伝えていく上で効果のあるものと判断する。	二の丸茶室は掛川城公園内にあり、湧水亭は昔の町並みの中、江戸時代中期の豪商の庭園の中にありそれぞれ立地状況・背景も異なり独自性がある。このような状況の中、統廃合するについては関係機関との調整が必要であり、一方の茶室の利用方法についても検討が必要となる。
(5) その他の課題等	①指定管理者の収入を増やすための工夫が行われているか ②設備の維持管理等に関して問題はないか	湧水亭への入館者を増やすため、ホームページ、雑誌等で紹介を行い努力しており、「ちっちゃな文化展」、「横須賀寄席」等に関連して誘客を図っている。 設備の維持管理については建物の老朽化、樹木の成育により管理費が必要となる。	指定管理者の収入を増やすには清水邸庭園を更にPRし、入館者を増やしていく。

5 その他自由意見